

資料2

第113回火山噴火予知連絡会 議事録

日 時：平成21年6月18日13時00分～17時30分

場 所：気象庁2階講堂

出席者：会 長 藤井

副会長 石原

委 員・・・井口、今給黎、植木、鵜川、大島、尾本（池内委員代理）、鍵山、佐藤、篠原
清水、武尾、中川、西（寺田委員代理）、野上、溝上（増子委員代理）、宮寄（仙
石委員代理）、村上、森、森田、山里、山本、横山、渡辺

地震火山部長・・・伊藤

オブザーバ・・・藤本、榊原（内閣官房）、長岡（文部科学省）、井上（国土交通省）、牧野（利
根川水系砂防事務所）、横川、長谷川、新田、森下、住谷、岩下、根本、木村
（国土地理院）、斉藤、加藤、氏原、佐々木（海上保安庁）、村瀬（日本大学）
笹井、小島（東京都）、清水（地磁気観測所）、福井、高木、坂井、安藤、新堀
（気象研究所）、山越（土木研究所）、藤田、上田、小澤（防災科研）、麻生（JAXA）、
塩谷（アジア航測）、佐々木、阪上（国際航業）、荒井（砂防地すべり）、和田
（リモートセンシング技術センター）

事務局・・・齋藤、小久保、稲葉、宮下、桜井、神出、藤原、飯野、道端、黒木、山中、
山崎、平松、齋藤（公）

●長官挨拶

●事務局より

- ・木股委員、山岡委員、中田委員、上嶋委員が欠席。池内委員の代理で尾本企画官、増子委員の代理で
溝上地震火山専門官、寺田委員の代理で西土砂災害研究官、仙石委員の代理で宮寄火山調査官が出席。
欠席の名大木股委員にかわり日本大学村瀬雅之助教に浅間山で報告いただく。

●会長、副会長、伊豆部会長の改選

- ・予知連は今年度から新しい任期となった。予知連運営要綱に基づき、会長、副会長、伊豆部会長の選
出を行いたい。

会長は、委員の互選ということになっているが、立候補者はいるか。

（立候補者なし）

- ・藤井先生を推薦する。
- ・火山観測体制の変更時期でもあり、引き続き藤井先生にお願いしたい。
- ・引き続き藤井先生にお願いしたいが、異議なければ拍手をお願いします。

（拍手）

- ・藤井先生に、引き続き会長をお願いしたい。一言ご挨拶をお願いします。
- ・引き続き引き受けさせていただく。これまでの任期中、あまり大きな噴火はなかった。精度の高い噴
火予知を目指して引き続き皆さんの協力をお願いしたい。会長が副会長、部会長を指名するというこ

とだが、副会長は石原先生に、伊豆部会長も渡辺先生に引き続きお願いしたい。

- ・了解した。
- ・各検討会の座長は引き続きの委嘱となる。よろしくお願いしたい。

●事務局より

- ・配布資料の確認
- ・前回議事録の確認。議事録についてお気づきの点は事務局まで。
(以降の議事進行を藤井会長に引き継ぐ)

●コア解析グループの設置について

- ・火山活動の議論に入る前に、コア解析グループについて。
- ・平成 21 年度補正予算で 4 7 箇所にボアホールタイプの観測施設を整備する計画である。採取したコアを分析することにより防災に役立てたい。コアの分析を円滑に進めるために予知連にコア解析グループを設置したい。火山毎に担当者を決めて、コア採取に当たって必要な支援いただくとともに、採取したコアの一次記載をお願いしたい。コア利用の優先権は、採取に協力いただいた担当者の方になると考えるが、その後の利用についてはオープンにしていきたい。コアは産総研に保存させていただく予定。
- ・中長期の噴火予測に役立てたいという趣旨のもと、予知連にグループを設置したい。運用に当たっては産総研の協力が必要であり、相談を進めてきた。コアの扱いについては一般的なルールがすでにあり、それに準じたものになると考えている。コアグループの設置をお認めいただきたい。

(了承)

- ・コアグループの主査は会長が指名することになっている。中田委員が経験を積んでおられるので主査をお願いし、産総研と協力して進めていただきたい。
- ・記者会見でコア解析グループ設置の旨、発表する予定である。

●GPS 火山統合解析結果の補正手法について

- ・(資料の説明) F 3 解析による GEONET 解析結果と火山統合解析結果との乖離を解消するための補正手法を考えた。今回提出している資料は、この補正手法を用いて作成している。
- ・F 2 と F 3 の違いは。
- ・F 3 では対流圏の水平不均質構造を補正している。また、つくばを固定点とした座標軸を使っている。F 2 は実際の解析値でなく、プレート運動のような経年的なものについてはモデルでの変動値を利用している。F 3 は実際の IGS の解析を行った結果にもとづいて、座標軸を固定したものを使っている。

●火山活動の検討

<本会議資料の取扱いについて>

- ・予知連資料は情報公開法に基づき公開対象となる。重大な誤り等あれば事務局に訂正連絡をもらいたい。

【北海道】

<雌阿寒岳・気象庁>

- ・96-1 火口では高温部分減少。地震 1 月下旬より減少。4 月 10 日にレベル 1 に引き下げている。

<雌阿寒岳・地磁気>

- ・昨年 11 月の噴火以降 96-1 火口の冷却傾向となっている。96-1 火口と観測点の位置から考えて火口の南側の地下で熱消磁が起きていると考えられる。

<十勝岳・気象庁>

- ・赤外熱映像に特段の変化なし。火口温度引き続き高い。GPS 連続観測に積雪による変動がみられたが元に戻った。

<樽前山・気象庁>

- ・火口の温度、道立地質研究所による最近のデータでは 590 度と高い状況。

<倶多楽・気象庁>

- ・北大から土砂噴出の連絡があり、現地調査を行った。

<有珠山・気象庁>

- ・火山活動は静穏。特段コメントはない。赤外熱映像では温度低下縮小傾向。

<北海道駒ヶ岳・気象庁>

- ・時系列グラフから見ると火山活動は静穏。深部低周波地震が一時増加した。

<恵山・気象庁>

- ・特段コメントなし。

- ・全体的に切迫した火山はないようだ。

<アトサヌプリ、摩周・北大>

- ・2 ページの図 4 を見てほしい。グラフの棒の長さは噴出物の量。摩周の方が棒が多く、爆発が多く発生していることがわかる。1 回の噴火の噴出量はアトサヌプリの方が多い。一方が爆発的噴火のときはもう一方が非爆発的噴火（成層噴火）を起こしている。
- ・摩周では 3 万 5 千年で 10 回以上噴火しているとのことだが、次はいつ頃か。
- ・摩周の前の噴火は千年前なので、この周期で行くと今後数百年は大きな噴火はないのではないかと。小さい噴火は別だが。

<雌阿寒岳・地理院>

- ・雌阿寒岳では 2008 年 10 月ころから阿寒 2 の観測点が北西方向に動いていると報告していたが、今年 3 月ごろから鈍化している。

- ・前回予知連で宿題が出ていたので検討してみた。去年秋から始まった変化については、噴煙高度も上がっているし、火山性地震も顕著に増えている、基線の急激な伸びもあるので、なんらかの火山性の変化があったのだろう。やや深い 5~10km あたりのマグマの注入と考えるのが自然である。
- ・今回の変動の原因が深いところにあるということを否定はできないが、この資料から考えると、浅いところが原因と考えてもよいのではないかと。図 1 は阿寒地域にある、地質的な基盤、顕著な構造線、重力異常図、噴気地を書いている。ライン状に噴気地帯があり、その構造線にそって下から水があが

ってきているのかもしれない。9 月 28 日のやや深い微動が起こったことを契機に深部熱水の上昇が始まり、これが火山灰噴出の活動を引き起こしたと考えられる。

- ・いまは動きが止まっているようだが、2通りの解釈が存在しているが。
- ・久しぶりに雌阿寒岳に上ったが、噴気が活発に見えた。ピリカネツプの噴気が活発に見える。
- ・なにか動きがあればこの場で検討したい。
- ・18 ページ地磁気観測所の全磁力変化はどう理解したらよいのか。
- ・従来考えられていたところよりさらに深いところで熱消磁がおこったものと考えている。

<樽前山・北大>

- ・1909 年の噴火から 100 年。B 噴気孔の温度変化特になし。S A R にも有意な変化なし。

<倶多楽・北大>

- ・熱泥噴湯活動は 2 年あまりも継続している。

<有珠山・北大>

- ・特に変化なし。

<北海道駒ヶ岳・北大>

- ・活動は低調。

- ・評価文についてどうか。
- ・これでよい。

【東北】

<岩木山・気象庁>

- ・地震少ないことのみ。

<岩手山・気象庁>

- ・黒倉山の噴気の温度。2007 年頃から低下傾向。

<秋田駒ヶ岳・気象庁>

- ・地震少なく、微動観測されていない、特段コメントなし。

<栗駒山・気象庁>

- ・地震活動少ない。微動なし。

<吾妻山・気象庁>

- ・昨年 11 月からの噴気活動やや活発に継続。熱活動は継続。地震活動 2 ～ 3 年周期の活動が見られる。
G P S 繰り返し観測では前回観測と比べ収縮している。

<安達太良山・気象庁>

- ・3 月 31 日に噴火警戒レベル導入。レベル 1。
- ・特にコメントなし。

<磐梯山・気象庁>

- ・3 月 31 日に噴火警戒レベル導入。レベル 1。
- ・5 月 10 日に地震が一時的に増加。5/10 11～12 時台 98 回地震発生。

<岩手山・東北大学>

- ・特に動きなし。

<栗駒山・地理院>

- ・昨年夏の「平成 20 年(2008 年)岩手・宮城内陸地震」の余効変動がみられる。

<吾妻山・産総研>

- ・3 月下旬の調査では、2008 年 11 月からの組成に大きな変化はない。

<吾妻山・東北大>

- ・追加資料の説明。吾妻山では去年の夏以降、地震活動が活発になっている。11 月に新噴気が出現したが、9 月後半に発生したほとんど全ての地震が単色地震であった。1998 年以降繰り返している群発地震としては初めてのこと。新しい噴気の出現はごく小規模な水蒸気爆発であり、その前駆現象のようなものと考えている。今後は地震回数だけでなく波形の変化についても注目する必要がある。

- ・吾妻山では、なにが起こっているのか。
- ・わからない。
- ・気象庁安達太良山の G P S 基線、図 6 の③、山の西側の基線、長期にわたって伸びているようだが、なにか解釈しているのか。
- ・鷲倉観測点が観測点近傍の地熱活動の影響で動いているとの話を仙台管区から聞いている。

(10 分休憩)

【関東】

<那須岳・気象庁>

- ・那須岳は 3/31 にレベルを導入。噴火警戒レベル 1。観測値についてのコメントは特になし。

<草津白根山・気象庁>

- ・湯釜北東で熱活動が活発化したため、4 月 10 日に注意喚起のため噴火予報を発表した。6 月 3～4 日に機動観測を実施した。

<草津白根山・地磁気>

- ・2008 年秋から今年春の変化には傾向の違いが見られる。熱活動の活発化を考えると、どこかで熱消磁が進んでいる可能性がある。図 5 の連続観測結果では、明瞭ではないが帯磁傾向に鈍りがあるようだ。

<那須岳・防災科研>

- ・地震活動、茶臼岳の北西、深さ 2～3 k m のところでいつもの活動が起こっているが、活動度レベルとしては正常の範囲内。

<草津白根山・東工大>

- ・4 月から 5 月に地震回数が増加したが、新噴気発見前と後で震源に差はみられない。北側噴気孔の噴気の温度・成分に変化はみられない。湯釜北東噴気の温度はほぼ沸点で変化はない。湯釜北の噴気付近の地温を連続で観測している。92 度の沸点温度を維持しており、すぐ下では沸騰していると思われる。

<草津白根山・地理院>

- ・地殻変動ほとんどない。
- ・気象庁資料 12 ページの熱赤外映像。湖面の温度を解析するときには反射の影響について注意が必要。
- ・13 ページのエリア 3 は垂直ではないので過小評価していないか。
- ・指摘のとおりで、面が寝ているので実際より小さめの値である。
- ・地理院資料 23 ページでは、特段の変化は見られないとの評価だが、基線長 5 ～ 6 km のものに 3 cm の変化は顕著な変化に思える。6 番と 8 番の基線の斜距離の変化は広域応力場では説明できない。
- ・今すぐは回答できないようなので調べてほしい。
- ・(パワーポイントで資料説明) 湖面の色が 1976 年の噴火前の状態に近づいてる。噴火前の 2 価の鉄イオンの湧出による色の変化ということで説明できる。活動の活発化を示している。
- ・北東の温度の上昇、活動上向きについて、表現はどうか。
- ・評価文で、山頂とはどこかということについて。湯釜に限定したくない。
- ・噴火警戒レベルの定義による山頂火口はどこのことを言っているのか。
- ・湯釜、水釜、涸釜の 3 つ合わせて山頂火口としている。

< 浅間山・気象庁 >

- ・火山ガス、次第に減少している。B L 型地震はやや多い状態が続いている。熱赤外映像では、高温域の拡大はみられない。
- ・2 月 2 日の噴火では、噴火の途中で地震振幅の拡大、傾斜変動の加速などがみられた。山頂北西側に収縮源が推定される。

< 浅間山・気象研 >

- ・光波測距、山頂火口に近い点は 2 月以降縮みが停滞。
- ・36 ページ噴煙高度の再推定。火口縁上 2000m との遠望観測よりも高かったのではないかと、エコーでは 2000m よりも高かったのではないかと。3500m で仮定して計算すると、現実の降灰域とあう。

< 浅間山・震研 >

- ・GPS 25 番の基線、鬼押出ー高峰の基線の伸びは続いている。もう少し長い基線では 4 月から停滞。2 番の基線、小室ー嬬恋西は 2 月にはいったん停滞しているようにも見たが、4 月以降また伸びているようだ。7 番は去年 7 月からの伸びが続いている。車坂峠をはさんだ基線では地殻変動は続いているようだ。
- ・最近の火口底の様子を撮影した。火口底の穴からジェット音を伴って有色噴煙が出ている。450℃のガスが噴出している。
- ・空振計の観測も同時にしている。スペクトル高いところは風。図 3、スペクトル (775Hz) の持ち上がりが見られる。ジェット音を伴う噴気と対応している。
- ・傾斜変動を伴う地震は何かだが、茂木モデルには合わない。いったん開口クラックを火口直下につくり、その後、ガスと噴煙を出す。
- ・ミューオンの観測では、現在まで火口内に大きな質量移動は観測されていない。

< 浅間山・日大 >

- ・精密水準測量を 5 月に実施した。追分に対し車坂峠西方の高峰山を中心に最大 5 mm の隆起が観測され

た。2005 年以降、峠側は沈降していたが、隆起が観測されるようになった。隆起の範囲は広がっていた。高峰山に変位の中心があると考えられる。

<浅間山・防災科研>

- ・噴火直後に航空機で観測した。噴煙が充満している状態で高温部のパターンの比較ができた。600℃をこえる高温部分はなく、マグマが出ていないことがわかった。

<浅間山・地理院>

- ・差し替えの 5 ページ、2004 年の噴火以降延びていたものが 2005 年以降収縮に。各基線今年 4 月頃から伸びがおさまっている。鬼押出し観測点はわずかに動いている。
- ・P A L S A R では顕著な変化はみられない。
- ・国土地理院では 9 月に東側の水準測量を予定している。

- ・地殻変動については各機関で評価が違ふようだが。
- ・気象研の資料と震研の動きは対応しているようだ。問題は高峰高原を南北にはさむ基線をどう評価するか。
- ・どう考えるとつじつまがあうか。
- ・鬼押出しだけが動いているというところは気象庁と一致している。車坂峠—高峰については、車坂峠の板状の貫入源が縮小しているのではないか。
- ・観測や解析の結果に矛盾はない。山に近いところが鈍化している。
- ・系統的に解釈しにくいのは鬼押出しの所だけ。
- ・評価文、G P S の記述はこれでよいか。
- ・地殻変動については実際観測されているのでよい。
- ・山頂で傾斜変動を伴うような地震について、ここ 1 ヶ月くらい前掛山観測点での振幅が最近大きくなっている。

【伊豆・小笠原】

<伊豆大島・気象庁>

- ・体積歪計変化に降水量を重ねてみた。地殻変動の基線の伸びは気象庁の基線では判りにくい各機関の観測結果もみて評価文にしている。

<伊豆大島・気象研>

- ・カルデラ内 G P S 欠測期間があるが、短期的には鈍化。A P S 観測では 2008 年後半から停滞傾向。

<伊豆大島・地磁気>

- ・温度変化に伴う変化のみ。火山活動に伴うとみられる地磁気の変化はなし。

<伊豆大島・震研>

- ・GPS 膨張が続いていると書いているが、鈍化としてもよい。帯磁傾向は山頂に一番近いところで鈍化しつつも続いている。地中の CO₂ 濃度は 2008 年 10 月以降減ってきているがまだ多い。

<伊豆大島・防災科研>

- ・とくに変化ない。

<伊豆大島・地理院>

- ・GPS 連続観測では、今年 1 月頃から伸びは停滞しているようだ。ベクトル図では、1 月以降膨張はな

いようだ。A P S 連続観測でも最近はとまっているようだ。干渉 SAR も変化なし。

<新島神津島・地理院>

- ・新島－神津島間の伸びは速度は遅くなっているが継続している。

<三宅島・気象庁>

- ・4月にごく小規模の噴火あった。地震回数は1～2月がピーク。現在はやや多い状態が続いている。火山ガス放出量は直近では減少傾向も見えるがもう少し様子を見たい。
- ・4月1日の噴火の数時間前に振幅の大きな微動が発生していた。

<三宅島・震研>

- ・地磁気に特段の変化はない。

<三宅島・防災科研>

- ・低周波地震が頻発する時期がある。3月以降傾斜変動のドリフトがわずかに変化した。「だいち」によると火口底で等速の沈降が見られた。

<三宅島・産総研>

- ・山頂部で何度か火山灰の堆積を確認している。降灰の分析、ごく少ないが新鮮なガラスが含まれている。ガス組成変化なし。

<三宅島・地理院>

- ・島の中心部では収縮、外周部を結ぶ基線では膨張。S A R では変化なし。

<三宅島・海保>

- ・変色水認められない。

- ・ガラスがあるとはどういうことを示すのか。新鮮なガラスは常に見つかっているのか。
- ・強調するつもりはないが、新鮮なガラスはいつもある。マグマが相変わらずいつもそこにあるということ。
- ・噴火の前に振幅の大きな地震が常に起こっているのか。
- ・噴火時には振幅の大きな地震は発生している。4月1日は数時間前に微動があった。このような微動はめずらしい。

<八丈島・気象庁>

- ・特になし。

<小笠原・海保>

- ・プレート運動の定常的な地殻変動以外、特にコメントすることはない。西ノ島では相変わらず変色水が見られている。硫黄島、写真5では馬の背で2箇所噴気が見られている。福德岡ノ場では変色水が確認されている。

<小笠原・防災科研>

- ・硫黄島は地震活動低調。2008年後半から2009年にかけて隆起量停滞していたが、最近はまだ隆起している。本山は収縮している。PALSARによると最近北東部の隆起が顕著。

<小笠原・地理院>

- ・防災科学技術研究所と同様で、隆起が止まっていたが、11 月からまた始まった。

【九州】

＜九重山・気象庁＞

- ・特にコメントなし。

＜阿蘇山・気象庁＞

- ・2 月 4 日に噴火があった。孤立型微動は多い状態が続く。第一火口の湯だまりの減少続いている。赤熱が続いている。

＜阿蘇山・地磁気＞

- ・地磁気、北側の 4 番から 6 番で増加傾向だったのが減少傾向になった。最近はや磁傾向に見える。

＜阿蘇山・京大阿蘇＞

- ・微動のレベルあまり変化していない。年末から火炎現象や火山灰の噴出活動あたりから、蓄熱傾向が放熱傾向に変わった。

＜阿蘇山・九大＞

- ・温泉の水量等変化なし。

＜阿蘇山・地理院＞

- ・特に変化なし。

- ・評価文についてどうか。
- ・事前に調整しており、これで結構だ。

＜雲仙岳・気象庁＞

- ・特にコメントなし。GPS の変化は観測所建物の取り壊しの影響と思われる。

＜雲仙岳・京大阿蘇＞

- ・変化なし、ドームの噴気ガスの温度が下がっている。

＜霧島山・気象庁＞

- ・特にコメントなし。

＜霧島山・震研＞

- ・震源、全磁力とくに変化なし。

＜霧島山・京大阿蘇＞

- ・火口湖の色の変化について気象庁福岡火山センターから調査依頼があった。PH が下がったために色が変わった。

＜霧島山・地理院＞

- ・特に変化なし。

- ・地理院の測線 2007 年ころから縮みがとまっているようだが原因は。
- ・原因不明。
- ・広域応力場としては、北東－南西圧縮であり、以前からの傾向とあっている。また、気象庁の GPS

観測の結果にも 2007 年頃の変化はみえている。これを説明するにはテクニクなモデルが必要。

- ・牧園観測点の状況に問題はないことは確認している。

<若尊・海保>

- ・変色水なし。

<桜島・気象庁>

- ・53 ページの噴火に伴う伸縮変化。両成分の変化の極性から比較的浅いところの減圧と見ている。

<桜島・気象研>

- ・レーダーエコーでも 4000m 以上まで噴煙が見られており、遠望画像との整合取れている。レーダーを使った監視手法の研究を続ける。

<桜島・京大桜島>

- ・GPS、始良カルデラ隆起続いている。火山ガス放出続いている。

<桜島・地理院>

- ・特になし。SAR も特になし。

<桜島・海保>

- ・航空機観測、特段コメントなし。

- ・評価文これでよいか。

- ・これで結構。

<開聞岳・京大桜島>

- ・特になし。

<開聞岳・海保>

- ・特になし。

<薩摩硫黄島・気象庁>

- ・今年 3 月下旬から地震増加している。

<薩摩硫黄島・京大桜島>

- ・地震計不調でコメントない。

<薩摩硫黄島・海保>

- ・特になし。

<口永良部島・気象庁>

- ・GPS 地殻変動は鈍化している。火山ガス放出量減少している。

<口永良部島・京大桜島>

- ・GPS はほとんど停止していると見ている。新岳の南で噴気活発だったが、赤外で 200 度以上を観測している。

<口永良部島・産総研>

- ・火山ガスが減っている。組成はあまり変化していない。新岳と火口のガスの組成の違いは温度の違いによるもので本質は同じ。

＜口永良部島・海保＞

- ・航空機による磁気観測、磁気異常を観測。

- ・評価文これでよいか
- ・これでよい。

●会見資料の確認

＜中ノ島・京大桜島＞

- ・特になし。

＜中ノ島・海保＞

- ・特になし。

＜諏訪之瀬島・気象庁＞

- ・噴火が多かった。地震や微動も多い。

＜諏訪之瀬島・京大桜島＞

- ・注目すべき現象として、3月19日に島内で有感となるA型地震があった。これまで有感となるA型地震発生以降、噴火活動が活発になった。今回も3月にA型地震があり、4月に活発化している。

＜諏訪之瀬島・海保＞

- ・未補正だが熱画像を掲載した。

＜南西諸島・地理院＞

- ・諏訪之瀬島、宿題だった点、前回の変動はまちがい。変動はなかった。

＜硫黄島・気象庁＞

- ・特にコメントなし。

＜硫黄島・海保＞

- ・特になし。
- ・悪石島、横当島に若干の変色水。

●火山活動評価検討会の検討結果について

- ・中長期的な噴火の可能性の評価に関する報告書を取りまとめた。47の火山を選定した。摩周など意見の分かれた結果、選定されていない火山もある。9月に第9回検討会を予定。
- ・参考資料2の2ページの有珠山の記述の3つ目の「・」について、本文11～12ページと同様に修正する。

●火山観測体制等に関する検討会の検討結果について

- ・資料の説明。データ流通作業部会を7月6日に開催する。12月頃までに報告をまとめ、観測体制検討会に報告したい。十勝岳を例に個標の個別説明。全部で47火山について表としてまとめた。詳細な内容の検討は行っていない。まだたたき台だ。今後議論して詳細な記載をしていきたい。観測点は位置図については今回つけていない。最終報告までにはつける。

●桜島における昨年度の構造探査及び今年度の多項目観測について

- ・桜島人工地震探査を昨年11月に行った。平成21年度以降、桜島については次の地震火山噴火予知計画において全国連携の事業として実施する。その中で、反射法探査を計画している。昨年11月の反射法探査の繰り返し観測。地震計・発破点とも同じ所で実施し、時間変化を抽出する。

●今年度の構造探査について

- ・10年前に伊豆大島で構造探査を行ったが、今回は海底地震グループと一緒にもっと深いところの構造を調査する。10年前の測線と直行する方向にさらに長い測線で人工地震探査を行う。実施は10月の予定。

●閉会

- ・18時から記者会見を予定しており、会長、副会長、火山課長が対応する。評価文とコア解析グループについて報道発表する。次回予知連は10月に開催予定。この後、希望者の現業室見学を行う。

以上